

助産師人材交流・資質向上事業の進捗状況について（報告）

1 H29.2～H30.3 までの取り組み状況と成果

	取り組み内容	成果・効果等
(1) 協議会の 開催	○H28年度 協議会 2回開催 H29年度 協議会 3回開催 *目的： 宮城県における助産師就業の偏在解消や助産実践能力の強化を図る	○関係者で県内の助産を取り巻く課題を共有し、助産実践能力向上の具体策として出向研修の検討や研修体系の整理等ができ、一定の目的は達成した。
(2) 研修の 体系整理	○助産実践能力向上のための研修全体の集約整理 ○小委員会(1回)の開催・意見聴取	○各団体・施設間で情報共有ができた。 ○研修基礎資料を作成し、研修体系の見える化をした。
(3) 出向事業の しくみづく り・条件整備	○出向条件等の検討 ・10施設を訪問し意見聴取を実施 ○「助産師出向助成事業」の創設 ・補助金の枠組み検討 ・協定書・確認書の原案作成 ○コーディネーター選定・役割を整理	○出向に当たり、身分や手当等は本人に不利益を与えないように条件整備ができた。 ○2施設間で協議し、総務担当を含む組織全体の理解協力の下、協定締結に至った。 ○研修目的の出向の場合は、今後、当該施設間で直接具体的に協議して進めることが可能な枠組みとなった。

2 主な課題

- 今後も県、関係団体、各病院の研修計画の情報を収集し、研修全体の見える化を継続する方法について検討が必要。
- 出向研修事業は、周産期母子医療センター10施設だけでなく、クリニック等も対象とした場合のマッチング等について検討が必要。
- 出向研修事業は互いの人材育成には有効だが、地域偏在の解消・改善そのものを図るためには、長期的視点での県内全体の助産師確保・定着対策について、何らかの形で検討が必要。

「平成 29 年度第 3 回宮城県助産師人材交流促進・資質向上協議会」（平成 30 年 3 月 1 日開催）資料より一部抜粋，改変
事務局：宮城県看護協会

宮城県助産師人材交流促進・資質向上協議会設置要綱

1 目的

本会は、宮城県における周産期医療対策の一環として、助産師就業の偏在解消や助産実践能力の強化を図るため、関係者で助産師に関する諸課題を共有し、助産師就業の偏在把握や助産師の施設間交流、育成研修等について検討を行うことを目的とする。

2 構成委員

委員は、宮城県、学識経験者、宮城県医師会、宮城県産婦人科医会、周産期医療機関、宮城県助産師会、宮城県看護協会、その他助産師の確保育成に従事する者等

3 協議内容

助産師に関する諸課題の対応策を検討する

- (1) 助産師の地域偏在解消のための解決策
- (2) 助産師育成のための研修の実施
- (3) 助産師の施設間人材交流制度

4 運 営

- (1) 協議会には、会長、副会長を置く。
- (2) 会長は、協議会の議長を務める。
- (3) 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。

5 事務局

協議会の事務局は、公益社団法人宮城県看護協会に置く。

宮城県助産師人材交流促進・資質向上協議会 委員名簿(H29.12.1現在)

	団体名	役職等	委員
1	東北大学大学院	名誉教授	佐藤 喜根子
2	宮城大学	看護学部大学院看護学研究科 教授	塩野 悦子
3	宮城県医師会	常任理事	佐々木 悦子
4	宮城県産婦人科医会 (東北公済病院)	常任理事 (産科統括部長)	上原 茂樹
5	宮城県助産師会	会長	後藤 美子
6	仙台赤十字病院	看護師長	佐藤 貞子
7	東北大学病院	看護師長	酒井 由里
8	宮城県立こども病院	看護師長	日戸 千恵
9	東北公済病院	看護師長	佐藤 広子
10	仙台市立病院	看護師長	梅原 あゆみ
11	仙台医療センター	看護師長	佐藤 秀子
12	大崎市民病院	看護師長	伊藤 洋子
13	石巻赤十字病院	副看護部長	津田 佐都子
14	気仙沼市立病院	副看護部長	小山 よし子
15	みやぎ県南中核病院	副看護部長	黒澤 恵
16	宮城県保健福祉部 医療人材対策室	室長補佐	熊谷 香織
17	宮城県看護協会	会長	佃 祥子